

第12回日本歯科色彩学会開催を前にして

大会長
池見宅司

日本大学松戸歯学部保存学I講座（保存修復学）

第12回日本歯科色彩学会まで残すところ約1ヶ月となりました。皆様のご協力を得て、多数の演題が集まり、誠に有難うございました。是非とも、多くの皆様の参加をと期待しておりますので、会員以外でも色彩学に興味のある方々をお誘いあわせの上、御参加いただきますようお願い申し上げます。実行委員長の河野善治をはじめとして、医局員一同皆様をお待ちしております。

歯科医療の特殊性として、生体材料が多く用いられ、それらの色彩は学問的に重要な位置付けがなされていると考えております。特に審美性が重視される昨今、いかに優れた材質であっても審美性に欠ける場合には歯科材料としての価値は認められず、いかに優れた治療・技工技術であっても材料の色調が不調和であれば最終的には治療の失敗となり、患者の満足感は得られません。先日、米国で卓越した審美的修復技術を持つ歯科医師のパンフレットを見て驚嘆いたしました。写真で見ても天然歯と見分けのつかないコンポジットレジン修復でありました。これは、私ども修復学に席を置く者に強烈なインパクトを与えてくれると同時に、淡々と日々の診療に明け暮れているわれわれに大いなる目的を見出させてくれました。

さらに、歯科色彩学は歯の色調だけでなく形態とのバランス、診断学的応用、診療室と技工所のIT連携、診療室・技工室の配色や術者の衣服、器材配置が患者あるいは診療スタッフに与える心理的な影響なども含まれており、まだまだ未知の分野が広がっております。そして、これらのことは歯科医学だけでなく社会一般の色彩学にも共通し、応用される事柄を多く含んでおり、今回のメインテーマを“歯科医学が発振する色彩学”とした次第であります。

さて、今回の特別講演は色彩に関する統計学と生活歯の漂白について、それぞれ飯島洋一先生と東光照夫先生をお願いいたしました。今後、色彩学を研究する上において統計学は重要なテーマであり、皆様も非常に興味ある所ではないかと思えます。また、生活歯漂白に関しては、歯科医療関係者以上に患者が興味を持っており、色彩学的な知識はインフォームドコンセントにおいても重要なものと考えられます。特別講演で大いに学習していただきたいと考えております。

また、色彩感覚涵養大会というゲームを通して各々の色彩感覚を向上していただければ幸いです。このゲームは色彩学会講習会で行われているもので、経験者もおられると思いますが、再挑戦してみてください。なお、得点は上位3位まで公表いたしますが、4位以下は本人の希望によりお教えします。本涵養大会は原則として会員のみとさせていただきますが、会員予定者で懇親会に参加される方も有資格者といたします。そして、展示発表では、各々のテーブルにおいて製品の特徴や使用方法等について説明する時間を設けました。大会中だけでなく、その時間帯は業者の皆様のご協力をお願いいたします。

以 上

2004年度 「歯科色彩学会・色彩講会」

開催日時平成16(2004)年10月23日(土)、24日(日) 午前9時-午後5時

開催場所 学校法人阪勉学園・埼玉歯科技工士専門学校

<http://www.dtcs.ac.jp/guidance.html>

埼玉県さいたま市見沼区東大宮1-12-35

募集・定員 40名以内先着受付順

日本歯科色彩学基礎理論講習内容

1. 歯科のための色彩
2. 色彩感覚基礎
4. 色彩感覚応用① 色差感覚、HV/C 感覚, 色彩弁別
5. 色彩感覚応用② 偏色判定
6. 色彩感覚応用③ デンタルシェードマッチング
7. カラーデバイス理論
8. カラーマネージメント
9. 最新測色器機能動向
10. 色感テスト実技

※準備するもの筆記用具、ノートPC(Excel 利用)、電卓も可

募集要項 参加申込先

日本歯科色彩学会・講習会担当宛電話ファクスおよびメールで

カラーランド研究所内日本歯科色彩学会講習会担当

電話 048(811)1911 FAX 048(811)1912 Email;jacd@colorland.co.jp

〒336-0931

さいたま市緑区原山1-25-25 参加費用 4万円

会員・賛助会員・学生 3万5千円

実技試験費用 5千円含む

非会員 5万5千円(実技試験 5千円含む)

振り込み先銀行

みずほ銀行大宮支店さいたま新都心出張所(店番号 9)
日本歯科色彩学会講習会口座番号 3213188

日本歯科色彩学会認定士制度審査について
日本歯科色彩学会会員が参加し※ 資格試験合格の場合「日本歯科色彩学会認定士」審査要項の証を発行いたします。詳しくは「歯科の色彩・機関誌」認定士資格審査要項をご覧ください。

認定士委員会からのお知らせ

認定審査会 委員長 阪 秀樹

日本歯科色彩学会認定士制度が発足して4年になります。現在、38名の会員が認定士の資格を取得し、研究・臨床・教育にご活躍されています。認定士の資格は、7年で更新となり、更新にあたっては、7年間の間に「日本歯科色彩学会の学術大会に4回以上出席すること」や「歯科色彩に関する報告を3回以上行うこと」などの要件を満たしていなければなりません。（詳細につきましては「日本歯科色彩学会認定士制度施行細則」をご参照下さい。）そこで、今季学術大会などへ積極的にご参加いただければ幸いです

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方もぜひ取得していただき、歯科色彩学の高度な研究と水準の維持向上を図っていただければ会の発展にもつながりますので、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

花王見学会開催される

さる2月29日、見学会委員会主催の見学会が開催されました。今回は東京・亀戸にある「花王東京研究所」の訪問でした。日曜日の午後からの短い時間でしたが、長崎や広島、大阪、岐阜、長野、松本など遠方からの出席者も多く、会長以下30名の方が参加されました。

まず、花王の研究開発活動全般について、歯を白くする歯磨きの研究結果など、ヒット商品ヘルシア緑茶をいただきながら解説していただきました。美しい歯に関する意識調査結果によると、多くの方が自分の歯を美しくないと感じ、その理由として黄ばみがあり白くないこと、歯並びが悪いことを筆頭に、むし歯や治療跡があることなどを挙げていることが大変興味ある内容でした。

その後、2班に分かれて研究所内を見学させていただきました。小博物館では花王

石鹼の由来や各種製品の変遷について見学しました。昔の銭湯の縮小模型の前では、風呂敷の由来や弓矢のマークの解説に、トリビアの泉さながらの「へえー」の声が上がっていました。「週に1度は髪を洗いましょう」という広告のキャッチフレーズや洗剤のコンパクト化などに歴史を感じ、Asience という話題のシャンプーやインクジェットプリンターのインクが花王製品であることに皆、驚いていました。研究室では、ナノ微粒子のフッ化カルシウムを用いることで、歯面や補綴物の表面により確実にフッ化物コーティングができることを実験的にデモンストレーションしていただきました。また、化粧品評価のために皮膚色をメラニンと分けて評価するシステムの解説の前では大勢の興味を誘っていました。隣にはエステサロンのような製品評価コーナーがあり、参加の女性陣からは一度試してみたいという声が上がっていました。まだまだ、もっと詳しくという声も聞かれましたが、予定時間も経過し、花王製品のお土産を頂戴し見学会を終了しました。その後、会場を近くの割烹「升本」に移し、深川あさり鍋や亀戸大根に舌鼓をうちながら、懇親会を開催しました。参加者も24人と会場いっぱい、和久本貞雄先生の叙勲のお祝いなどで盛り上がり、皆満足のうちに夜もふけて二次会もお開きとなりました。

最後になりましたが、休日にもかかわらず出社いただき、懇切丁寧な解説をしていただいた花王株式会社ならびにヘルスケア研究所の皆様に厚くお礼申し上げます。

学術会議 歯学系学会連絡協議会に入会

本会も会員の少ない学会であるが、歯科関係65団体の仲間入りをしましたので、報告します。

20世紀末尾から21世紀初頭にかけて社会の変革の中で、学問の体系や学術団体のあり方についても大きな改変が求められている。歯学においても、医学との関係や、他の学問領域との連携について見直しを迫られるとともに、歯学部の再編・統合や大講座制の導入など、歯学の再構築も含んだ多くの課題に直面している。

新世紀において、歯学がその存在基盤と主体性を保持して国民の付託に応えるためには、社会の要請を適確に捉えて学術研究を推進し、国民の健康と福祉の向上に寄与するとともに、国民、政府、歯科界に対して積極的な発言と必要な提言を行わなければならない。このためには、歯学の研究領域を網羅した歯学系全学会の連絡組織を設立して、研究者相互の情報交換と意思疎通を緊密にする必要がある。

日本学術会議は、わが国の科学振興政策に直接提言できる国の特別の機関である。そこには歯学系の3つの研究連絡委員会が置かれ、歯学各領域の学術活動における連絡・調整を図るとともに、学術シンポジウム等の開催を通じて歯学の発展と啓発に貢献してきた。新たな変革の時代を迎え、この3研究連絡委員会では、平成14年2月22日に第1回合同会議を開催し、21世紀の健康科学における歯学の位置付けを中心に討論を行い、歯学系の全学会を網羅した連絡組織を設立して歯学の発展を加速し、わが国の学術振興に寄与すべきことが確認された。続いて同年11月29

日に第2回合同会議を開催し、21世紀における歯学のグランドデザインとそのプロセスを中心に討議を行い、3研究連絡委員会から歯学の全学会に呼びかけて歯学系学会連絡協議会を設立することが合意された。

本協議会は、加盟各学会の連携と協力によって運営され、歯学の学術研究に関する諸問題に対して協議し必要な提言を行うとともに、日本学術会議における審議等にも積極的に協力することによって歯学の学術研究の推進と普及を図り、もって国民の健康と福祉の向上に貢献することを目的とするものである。

お 知 ら せ

1・中国第四届口腔色彩学術研討会

日時：2004年8月9日～15日

場所：中国ウルムチ

主催：中国人民解放軍蘭州軍区烏魯木齋（ウルムチ）総医院
：北京大学人民医院口腔科

共催：日本歯科色彩学会

旅行案：本会が中国で共催した口腔色彩学会は、これで5回目です。今回は北京大学歯学部補綴科の一行に同伴を願いました。旅行費用は団体で申し込めますが、夏休み料金となりますが未定です。飛行機の切符やホテルの予約にはパスポートナンバーが必要です。

8月6日成田～北京、7日北京～敦煌、9日ウルムチで学会登録、10、11日発表、12、13日ウルムチ、トルファン観光。14日ウルムチ～北京、15日北京～成田（北京観光の方は16日）帰国

注：ウルムチは中国最西端、新疆自治区の区都で、「美しい牧場」という意味をもち、蒙古より西の天山山脈の南。この地方はウイグル、カザフ、キルギス、タタール、モンゴルなど多くの民族が伝統を守っており、さながら民族十字路の様相を見せています大きな市です。孫悟空の生まれたという火焰山なども近くです。

2・歯科色彩用語集完成

永年の計画で滞っていた「歯科の色彩用語」を間もなく刊行いたします。

故潤田和好副会長は生前最後のお仕事として取り組んでおられましたが、本年ようやく発表できることになりました。既刊「歯の色の話」別冊として企画されていた色彩に関する用語は、歯科医学で必要な色彩用語をはじめ、色彩基礎用語を網羅することを用語編集委員のボランティア活動により編集しました。この度、第12回歯科色彩学会総会・学術大会場において発表報告をする予定にしております。

頒布価格、体裁につきましては当日会場でご覧下さい。

歯科色彩用語編集委員長：元呑昭

夫

3. 業 績 集

先に 10 周年記念行事として、会員の著書、原著、総論などを募集しておりましたが、あまり集まりがよくはありません。ご希望の方は CD-R を作成してお渡ししたいと存じます。なお実費と送料をいただきます。

4. 見学会

エプソン、花王と続いた見学会は盛況のうちに満席で終了しました。続いて今年度は「デジタルカメラの最新情報とスライドのデジタル化」について株式会社ニコンに解説していただく予定で準備を進めています。ご意見、ご希望などをお寄せください。

5. 「おいでやす」

来年度第 13 回日本歯科色彩学会は大阪歯科大学病院（大阪城近くの天満橋）で開催されます。あいにく 7 月 25 日前後は天神祭りで大変混雑、7 月中旬を考えております。

大会長は末瀬一彦大阪歯科大学歯科技工士専門学校校長、準備委員長は木本吉昭先生、副委員長は仲宗根幸男先生です。末瀬先生は全国歯科技工士教育協議会の会長でもあり非常にお忙しい方ですが、学術大会を引き受けてくださりました。感謝を込めて「おおきに」

以上について、問い合わせは日本歯科色彩学会事務局まで。その他なんでも気軽に相談ください。

FAX 049-294-5455 メールアドレス 1kuemon@fb3. So-net. ne. jp